

Let's

「ホンキでホンモノの教育番組のもたらす効果は、ホンモノに触れるチャンスがあることです。さらに……」

7月上旬、上智大文学部新聞学科の鈴木雄雅教授が指導するゼミナール。3年のゼミ生たちがOHP（投影機）やパソコンを使って研究成果の報告を続ける。1人が報告を

終えるたびに、内容と報告形式について感想を述べ合った。

メンバーは2年5人、3年8人、4年8人。隔週に学年単位で開いているが、他の学年や大学院のゼミ生も自由に参加できる。包括的な研究テーマは「メディアと社会を考える」。ただ、研究主題や研究分析の手法に制約はない。

このため、硬派な靖国問題から、テレビドラマでの女性の描かれ方の変遷まで幅広い。

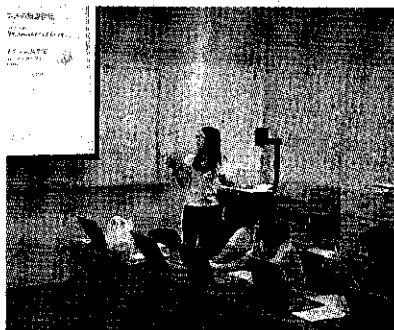
前後期に2回ずつの研究発表を全員に義務づける。授業の時間数が少ないため、結果的にゼミ生の自主的な研究が必要となる運営手法をとっているのが大きな特徴だ。

鈴木教授は「積極的な姿勢が何より重要だ。マスコミ志

上智大

就職力

新聞学科・雄雅ゼミ（東京都）



研究テーマについてOHPを使って報告する学生＝東京都千代田区の上智大で

夏休みには海外で合宿

望者が多いので、自らテーマを掘り起こしながら社会への問題意識も培って欲しい」。

ゼミ生による月1回のゼミニュース製作も課題。4〜5人で班をつくり、各班が独自色を打ち出したニュース4〜

をネット上に製作する。例年、4月には新歓コンパでの出来事、12月は1年間の重大ニュースなどが多くなるという。エッセイが載ることもあるが、基本的には身の回りで見つけたニュースによる

4割以上がマスコミに

新聞学科は1932年、文学部に設置された。当初は「新聞記者の養成」が目的だったが、現在は新聞や出版、放送界で活躍する人材の養成だけでなく、ジャーナリズム、コミュニケーション、メディアについて理論と実践の両面から教育する。

選択科目の「論文作法」では文章能力や自己表現力を養ったり、「テレビ制作」ではテレビ局と同じ機材を使った本格的な番組制作に挑戦したりする。2年からの少人数のゼミでは、事実の批判的な見方や研究能力を鍛え、論文作成や報道における倫理感覚の養成にも努める。

最近3年間の卒業生の4割以上が全国紙や地方紙、テレビ局、出版社などに就職した。

「新聞」製作だ。

新聞学科3年の神谷昌宏さんは「やりたいことを自由に研究できるのが魅力。将来は出版や新聞などの活字メディアで働きたい」。

英語学科3年の田中江里華さんは「メディアを研究したかったので、学科の枠を超えて加わった。ゼミ生同士の議

論で、いろんな意見が聞けるのが勉強になる」。

夏休みには海外に出かけてゼミ合宿。05年度はソウルを訪ね、新聞社を訪問したり、韓国の大学生との交流会を開いたりした。帰国後、全員の合宿の感想を小冊子にまとめている。06年度は、台湾で合宿する予定だ。（紺野信幸）